

年間第 29 主日 (マルコ 10:35-45)

身代金を払ってもらって自由を味わっている



土曜日朝、ミサの当番を間違えました。四日間の司祭助祭黙想会を終えての翌日でしたが、当番表を見ずに聖家族修道院に出向き、ミサを始めたあと携帯電話が鳴りました。「あー、間違えたんだな」と気づきました。まもなく、助任司祭の車も聖家族修道院にやって来ました。

けれども私の車が置いてあるのを見て、間違っただけで来ている主任司祭を可哀想に思ったのでしょうか、福江教会に戻ってミサをしてくれました。久しぶりに、言い訳のきかない間違いをしました。

今週の朗読で私の目に留まった箇所は、最後のところの「人の子は仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を献げるために来たのである。」(10・45)この箇所です。「身代金」はあまり身近な言葉ではありませんが、今、現役で仕事をしている人には無関係な言葉ではありません。

職場ではパソコンがどこでも使われています。ときおりそのパソコンに不審な画面が現れ、「おたくらのパソコンの中身をそっくり盗んだ。返してほしければ『身代金』を払え」と脅迫のメールが入るのです。日本の会社で身代金要求の脅迫メールが来て仕方なく要求に応じたケースで、平均的な身代金の額は1億2300万円だそうです。

イエスは「多くの人の身代金として自分の命を献げるために来た」と言っています。仮に金額が一億円だとして、私は二つのことを考えました。一つは、これまで何人の身代金のために自分の命を献げてくださったことか、ということです。今世界の人口は81億人と言われています。おそらく、100億人分の身代金が支払われたのでしょうか。イエス様の命は、100億人の身代金に値する献げものだったのです。

もう一つ考えたのは、私のためにも、すでに一億円の身代金が支払われた、ということです。私はこれまでに2千万円分の現金しか見たことがありません。私のパソコンが乗っ取られ、「一億円用意しろ、でないとパソコンの中身をばらす」と言われ、すべてを現金化しても用意できる金額ではありません。そのような身代金として、もうすでに私のためにイエスの命が献げられている。これは驚くべきことだと思います。

身代金が支払われて多くの人が自由の身となりました。その自由を、あなたはどのように使うでしょうか。自分の自由のために使いますか？それも可能です。しかし中には、次のような自由のために、使うことも可能です。それは「多くの人が自由に生きられるお手伝いのために使う」ということです。

今日午後から、牢屋の窄殉教記念ミサが開催される予定でした。現地でのミサは天候悪化のために中止となりました。牢屋の窄で命を献げた人々は、自分の信仰の自由のために命を献げました。

そして同時に、日本でキリスト教を信じる多くの人の自由のために、命を献げたと言って良いでしょう。イエスの命という身代金で買い戻さ

全能の神よ、聖なる福音をふさわしく告げるため、わたしの心と口を清めてください。

れた自由を、自分のためだけでなく、多くの人の自由のために使ったのです。

私はこれを、司祭召命、奉獻生活の召命にも結び付けて話すこともできると思います。司祭の召命・奉獻生活の召命は、どちらかと言うと自分の自由のためではなく、多くの人の自由のために命を使う道です。

このような生き方を選ぶ人が十人に一人、いや百人に一人いれば、多くの人が自分の自由のために思い切って生きることができるのではないのでしょうか。司祭や奉獻生活者の生き方を選ぶ人は、多くの人の自由に奉仕する、仕える生き方。私はそう考えました。

イエス様がご自分の命という尊い身代金を払って、私たちは自由に生きるチャンスを与えられました。私たちに自由に生きるチャンスが与えられたのは、命を献げてくださったイエス・キリストのおかげですと、声を大にして語る人が、百人に一人くらいいてくれたら。世界宣教の日にあたり、そのような希望を持ちながら、ミサを続けたいと思います。

年間第 30 主日(マルコ 10:46-52)

福音のことばによって、わたしたちが罪から清められますように。